

2010年2月

1. 新聞・テレビ等

(薬理部)

- 小島 肇

化粧品原料 安全性評価法 急がれる国際標準化

化学工業日報, 平成22年2月26日

欧州の動物実験代替法を焦点とした化粧品の安全性評価法についての現状が紹介され, 国際標準化の必要性が謳われている。

2. 誌上発表(原著論文)

(薬品部)

- Wang, B. *, Cicerone, M. T. *, Aso, Y., Pikal, M. J. *

*University of Connecticut

The impact of thermal treatment on the stability of freeze-dried amorphous pharmaceuticals: II. aggregation in an IgG1 fusion protein (非晶質凍結乾燥製剤の安定性に及ぼす熱処理の影響II IgG1融合タンパクの凝集)

J. Pharm. Sci., 99 (2), 683-700 (2010)

- Tokunaga, H. ^{*1}, Izutsu, K., Arai, S. ^{*2}, Yonezawa, Y. ^{*2}, Kuroki, R. ^{*2}, Arakawa, T. ^{*3}, Tokunaga, M. ^{*1}

^{*1}鹿児島大学, ^{*2}日本原子力研究開発機構, ^{*3}アライアンス プロテインラボラトリーズ

Dimer-tetramer assembly of nucleoside diphosphate kinase from moderately halophilic bacterium Chromohalobacter salexigens DSM3043: Both residues 134 and 136 are critical for the tetramer assembly (中度好塩性細菌DSM3043由来のヌクレオシド・二リン酸キナーゼの多量体構造形成へのアミノ酸残基の寄与)

Enzyme Microb. Tech., 46 (2), 129-135 (2010)

- Kadoya, S. *, Fujii, K. *, Izutsu, K., Yonemochi, E. *, Terada, K. *, Yomota, C., Kawanishi, T.

*東邦大学薬学部

Freeze-drying of proteins with glass-forming oligosaccharide-derived sugar alcohols (糖アルコールを用いた凍結乾燥タンパク質の安定化)

Int. J. Pharm., 389 (1-2), 107-113 (2010)

(生薬部)

- 内山奈穂子, 宮澤法政*, 河村麻衣子, 花尻 (木倉) 瑠理, 合田幸広

*埼玉県衛生研究所

2008年度買い上げ違法ドラッグ製品から検出された新規流通デザイナードラッグの同定

薬学雑誌, 130 (2), 263-270 (2010)

- 丸山卓郎, 宮井美穂, 鎌倉浩之, 中島育美^{*1}, 川崎武志^{*1}, 小松かつ子^{*2}, 藤田正雄^{*1}, 山本豊^{*3}, 柴田敏郎^{*4}, 合田幸広

^{*1}株式会社ウチダ和漢薬, ^{*2}富山大和漢薬研, ^{*3}株式会社栃本天海堂, ^{*4}医薬基盤研・薬植セ・北海道

遺伝子情報を利用したシゴカの基原種鑑別と純度試験法の検討

生薬学雑誌, 64, 15-20 (2010)

○ Chung M. H.

Similarities and differences of tokishakuyakusan and estrogen. (当帰芍薬散とエストロゲンの共通点と相違点)

J. Trad. Med., 26, 195-200 (2009)

(療品部)

○ 河上強志, 伊佐間和郎, 中島晴信^{*1}, 大嶋智子^{*2}, 土屋利江, 松岡厚子

^{*1}大阪府立公衆衛生研究所, ^{*2}大阪市立環境科学研究所

ガスクロマトグラフィー質量分析法による水性塗料及び水性接着剤中の有機スズ化合物の分析

薬学雑誌, 130 (2), 223-235 (2010)

○ 伊佐間和郎, 河上強志, 土屋利江, 松岡厚子

キャピラリー電気泳動法による家庭用品塗膜の鉛溶出量調査

生活衛生, 54(1), 27-32 (2010)

(環境衛生化学部)

○ 杉本直樹, 多田敦子, 末松孝子^{*1}, 有福和紀^{*1}, 齋藤剛^{*2}, 井原俊英^{*2}, 吉田雄一^{*3}, 久保田領志, 田原麻衣子, 清水久美子, 伊藤澄夫^{*4}, 山崎 壮, 河村葉子, 西村哲治

^{*1}日本電子, ^{*2}産総研, ^{*3}和光純薬, ^{*4}三栄源FFI

定量NMRを用いたコチニール色素中のカルミン酸の絶対定量

食品衛生学雑誌, 51 (1), 19-27 (2010)

○ Senzui, M. *, Tamura, T. *, Miura, K. *, Ikarashi, Y., Watanabe, Y. *, Fujii, M. *

*昭和薬科大学

Study on penetration of titanium dioxide (TiO₂) nanoparticles into intact and damaged skin in vitro (酸化チタンナノ粒子の正常及び損傷皮膚への浸透に関するin vitro系での研究)

J. Toxicol. Sci., 35, 107-113 (2010)

(食品衛生管理部)

○ Kajikawa, A., Masuda, K., Katoh, M., Igimi, S.

Adjuvant effects for oral immunization provided by recombinant *Lactobacillus casei* secreting biologically active murine interleukin-1 beta. (生物活性を持つインターロイキン1αを分泌する遺伝子組換え *Lactobacillus casei* を経口投与した場合のアジュバント効果)

Clinical and Vaccine Immunology, 17(1), 43-48 (2010)

○ Tanaka, Y. ^{*1}, Takahashi, H. ^{*1}, Imai, A. ^{*1}, Asao, T. ^{*2}, Kozaki S. ^{*3}, Igimi S., Kimura, B. ^{*1}

^{*1}Tokyo University of Marine Science and Technology, ^{*2}Osaka Prefecture Institute of Public Health, ^{*3}Osaka Prefecture University

Reconsideration of flexibility in verifying rapid alternative food microbiological methods. (食品微生物の代替迅速試験の妥当性確認における柔軟性を考える)

Food Control, 21, 1075-1079 (2010)

(衛生微生物部)

○ 小沼ルミ^{*1}, 渡辺麻衣子, 工藤由起子, 小西良子, 瓦田研介^{*1}, 高鳥浩介^{*2}

*¹地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター, *²NPO法人カビ相談センター

糸状菌の流動パラフィン重層法による長期保存後の生存性

防菌防黴, 38(2), 75-80 (2010)

(有機化学部)

- Demizu, Y. *¹, Yamagata, N. *¹, Sato, Y. *¹, Doi, M. *², Tanaka, M. *³, Okuda, H. *¹, Kurihara, M. *¹

*¹国立衛研, *²大阪薬大, *³長崎大院医歯薬

Controlling the helical screw sense of peptides with C-terminal L-valine. (C末端バリンによるペプチドヘリカル構造の制御)

Journal of Peptide Science, 16, 153-158 (2010)

- Ohno, A., Kawasaki, N., Fukuhara, K., Okuda, H., Yamaguchi, T.

Complete NMR analysis of oxytocin in phosphate buffer (リン酸緩衝液中でのオキシトシンの完全なNMR解析)

Magn. Reson. Chem., 48, 168-172 (2010)

(代謝生化学部)

- Sakai, S., Adachi, R., Akiyama, H., Teshima, R., Morishita, N. *¹, Matsumoto, T. *¹, Urisu, A. *²

*¹日本ハム株式会社, *²藤田保健衛生大学

Enzyme-Linked Immunosorbent Assay Kit for the Determination of Soybean Protein in Processed Foods: Interlaboratory Evaluation (加工食品中の大豆タンパク質を検出するELISAキットの多機関バリデーション)

Journal of AOAC International, 93(1), 243-248 (2010)

- Nakamura, R., Uchida, Y., Higuchi, M., Teshima, R.

Development of a novel allergy test using a cultured mast cell line (培養細胞を用いた新しいアレルギー検査法の開発)

ImmunoTox Letter, 14(2), 2-5 (2009)

新規に樹立した培養マスト細胞株「RS-ATL8細胞」を用い、患者に負担の少ない血清を用いた新しいアレルギー試験法「EXiLE法」を開発した。本法は、CAP-RAST法に代表される血清生化学的手法よりもアレルギー症状との相関が高かった。

(薬理部)

- Takahashi, K. *, Ishii-Nozawa, R. *, Takeuchi, K. *, Nakazawa, K., Sato, K. *
* 明治薬科大学

Two non-steroidal anti-inflammatory drugs, niflumic acid and diclofenac, inhibit the human glutamate transporter EAAT1 through different mechanisms (非ステロイド性抗炎症薬であるナイフルミック酸とジクロフェナクはヒト型グルタミン酸トランスポーターEAAT1を異なるメカニズムで阻害する。)

J. Pharmacol. Sci., 112, 113-117 (2010)

アフリカツメガエル卵母細胞強制発現系において、EAAT1のグルタミン酸誘発電流に対する非ステロイド性抗炎症薬の作用を検討したところ、ナイフルミック酸とジクロフェナクが異なるメカニズムでEAAT1機能を阻害することを見いだした。

(病理部)

- Takami, S., Imai, T. *¹, Cho, Y. M., Hirose, M. *², Nishikawa, A.

*¹ 国立がんセンター研究所 実験動物管理室, *² 内閣府食品安全委員会

Lack of modifying effects of prepubertal exposure to acrylamide (AA) on *N*-methyl-*N*-nitrosourea (MNU)-induced multi-organ carcinogenesis in F344 rats (MNUによるF344ラット多臓器発がんにおいてアクリルアミド幼若期暴露は修飾作用を示さない)

J. Toxicol. Sci., 35(1), 57-68 (2010)

- Kawai, M.* , Saegusa, Y.* , Dewa, Y.* , Nishimura, J.* , Kemmochi, S.* , Harada, T.* , Ishii, Y. , Umemura, T. , Shibutani, M.* , Mitsumori, K.*

*東京農工大学

Elevation of cell proliferation via generation of reactive oxygen species by piperonyl butoxide contributes to its liver tumor-promoting effects in mice. (ピペロニルブトキサイドによる活性酸素種生成を介した細胞増殖誘導がそのマウス肝発がんプロモーション作用に寄与している)

Arch. Toxicol., 84, 155-164 (2010)

- Inoue, K. , Yoshida, M. , Takahashi, M. , Fujimoto, H. , Shibutani, M. , Hirose, M. , Nishikawa, A.

Carcinogenic potential of alizarin and rubiadin, components of madder color, in a rat medium-term multi-organ bioassay (ラット中期多臓器発がん性試験法におけるアカネ色素成分アリザリンおよびルビアディンの発がん性の可能性について)

Cancer Sci., 100, 2261-2267 (2009)

- Saegusa, Y.*¹ , Woo, G. H. , Fujimoto, H. , Inoue, K. , Takahashi, M. , Hirose, M.*² , Igarashi, K. , Kanno, J. , Mitsumori, K.*¹ , Nishikawa, A. , Shibutani, M.*¹

*¹ 東京農工大学, *² 食品安全委員会

Gene expression profiling and cellular distribution of molecules with altered expression in the hippocampal CA1 region after developmental exposure to anti-thyroid agents in rats (抗甲状腺剤の発達期曝露後にラット海馬CA1領域において発現変動がみられた分子の遺伝子発現プロファイルと細胞における局在について)

J. Vet. Med. Sci., 72, 187-195 (2010)

(変異遺伝部)

- Toyoda-Hokaiwado, N. , Inoue, T. , Masumura, K. , Hayashi, H.*¹ , Kawamura, Y.*¹ , Kurata, Y.*¹ , Takamune, M. , Yamada, M. , Sanada, H.*² , Umemura, T. , Nishikawa, A. , Nohmi, T.

*¹明治製菓, *²科研製菓

Integration of in vivo genotoxicity and short-term carcinogenicity assays using F344 *gpt* delta transgenic rats: in vivo mutagenicity of 2,4-diaminotoluene and 2,6-diaminotoluene structural isomers. (F344 *gpt* deltaラットを用いたin vivo遺伝毒性試験と短期発がん試験の統合: 構造異性体2,4-ジアミノトルエンと2,6-ジアミノトルエンの変異原性)

Toxicol. Sci., 114, 71-78 (2010)

- Katafuchi, A. , Sassa, A.*¹ , Niimi, N. , Grúz, P. , Fujimoto, H.*² , Masutani, C.*³ , Hanaoka, F.*⁴ , Ohta, T.*¹ , Nohmi, T.

*¹東京薬科大学, *²国立感染症研究所, *³大阪大学, *⁴学習院大学

Critical amino acids in human DNA polymerases η and κ involved in erroneous incorporation of oxidized nucleotides (酸化ヌクレオチドの誤りがちな挿入に大きく関わるヒトDNAポリメラーゼ η 及び κ のアミノ酸)

Nucleic Acids Res., 38, 859-867(2010)

3. 誌上発表(総説・解説等)

(遺伝子細胞医薬部)

- 田邊思帆里

がん幹細胞

日本薬理学雑誌, 135(2), 87-88 (2010)

- 早川堯夫^{*1}, 梅澤明弘^{*2}, 山中伸弥^{*3}, 小澤敬也^{*4}, 大和雅之^{*5}, 澤芳 樹^{*6}, 山口照英, 松山晃文^{*7}, 佐藤陽治, 中内啓光^{*8}

^{*1}近畿大学, ^{*2}国立成育医療センター, ^{*3}京都大学, ^{*4}自治医科大学, ^{*5}東京女子医科大学, ^{*6}大阪大学, ^{*7}(財)先端医療振興財団, ^{*8}東京大学

細胞・組織加工医薬品等の品質及び安全性確保に関する研究(その1) ヒト(自己)体性幹細胞加工医薬品等の品質及び安全性の確保に関する指針案(中間報告)

再生医療, 9, 116-127 (2010)

- 早川堯夫^{*1}, 梅澤明弘^{*2}, 山中伸弥^{*3}, 小澤敬也^{*4}, 大和雅之^{*5}, 澤芳 樹^{*6}, 山口照英, 松山晃文^{*7}, 佐藤陽治, 中内啓光^{*8}

^{*1}近畿大学, ^{*2}国立成育医療センター, ^{*3}京都大学, ^{*4}自治医科大学, ^{*5}東京女子医科大学, ^{*6}大阪大学, ^{*7}(財)先端医療振興財団, ^{*8}東京大学

細胞・組織加工医薬品等の品質及び安全性確保に関する研究(その2) ヒト(同種)体性幹細胞加工医薬品等の品質及び安全性の確保に関する指針案(中間報告)

再生医療, 9, 128-138 (2010)

- 早川堯夫^{*1}, 梅澤明弘^{*2}, 山中伸弥^{*3}, 小澤敬也^{*4}, 大和雅之^{*5}, 澤芳 樹^{*6}, 山口照英, 松山晃文^{*7}, 佐藤陽治, 中内啓光^{*8}

^{*1}近畿大学, ^{*2}国立成育医療センター, ^{*3}京都大学, ^{*4}自治医科大学, ^{*5}東京女子医科大学, ^{*6}大阪大学, ^{*7}(財)先端医療振興財団, ^{*8}東京大学

細胞・組織加工医薬品等の品質及び安全性確保に関する研究(その3) ヒト(自己) iPS(様)細胞加工医薬品等の品質及び安全性の確保に関する指針案(中間報告)

再生医療, 9, 139-151 (2010)

- 早川堯夫^{*1}, 梅澤明弘^{*2}, 山中伸弥^{*3}, 小澤敬也^{*4}, 大和雅之^{*5}, 澤芳 樹^{*6}, 山口照英, 松山晃文^{*7}, 佐藤陽治, 中内啓光^{*8}

^{*1}近畿大学, ^{*2}国立成育医療センター, ^{*3}京都大学, ^{*4}自治医科大学, ^{*5}東京女子医科大学, ^{*6}大阪大学, ^{*7}(財)先端医療振興財団, ^{*8}東京大学

細胞・組織加工医薬品等の品質及び安全性確保に関する研究(その4) ヒト(同種) iPS(様)細胞加工医薬品等の品質及び安全性の確保に関する指針案(中間報告)

再生医療, 9, 152-165 (2010)

- 早川堯夫^{*1}, 梅澤明弘^{*2}, 山中伸弥^{*3}, 小澤敬也^{*4}, 大和雅之^{*5}, 澤芳 樹^{*6}, 山口照英, 松山晃文^{*7}, 佐藤陽治, 中内啓光^{*8}

^{*1}近畿大学, ^{*2}国立成育医療センター, ^{*3}京都大学, ^{*4}自治医科大学, ^{*5}東京女子医科大学, ^{*6}大阪大学, ^{*7}(財)先端医療振興財団, ^{*8}東京大学

細胞・組織加工医薬品等の品質及び安全性確保に関する研究(その5) ヒトES細胞加工医薬品等の品質及び安全性の確保に関する指針案(中間報告)

再生医療, 9, 166-180 (2010)

(環境衛生化学部)

○ 西村哲治

2009年の水道法に基づく水質基準改正について

ファルマシア, 46(3), 276-279 (2010)

(食品添加物部)

○ 石川洋哉^{*1}, 松本 清^{*2}, 受田浩之^{*3}, 島村智子^{*3}, 松藤 寛^{*4}, 山崎 壮^{*1}
^{*1}福岡女子大学, ^{*2}九州大学大学院, ^{*3}高知大学, ^{*4}日本大学

食品の抗酸化能評価法

FFIジャーナル, 215 (1), 5-16 (2010)

(有機化学部)

○ 福原 潔

フェノール性抗酸化物質をシーズとした高機能性分子の開発

ビタミン, 84(1), 22-25 (2010)

(薬理部)

○ 小島肇夫

薬用化粧品の承認取得における安全性試験をめぐる問題点

医薬部外品有効成分承認取得のための対策と課題, フレグランスジャーナル社, 48-58 (2010)

医薬部外品の製造販売承認申請における安全性に関する資料の中で, 動物実験代替法の利用法について解説した。

4. 単行本

(薬品部)

○ 阿曾幸男, 吉岡澄江

難水溶性薬物の物性評価と製剤設計の新展開

技術情報協会, 東京, pp. 224-235 (2010)

第5章2節 非晶質の緩和と結晶化について本書の一部を著述した。

○ 伊豆津健一

熱量測定・熱分析ハンドブック第2版

丸善, 東京, pp. 139 (2010)

医薬品凍結乾燥製剤の熱測定に関する項を担当した。

(生物薬品部)

○ 山口照英

バイオ後続品／バイオシミラー医薬品 ～日米欧の規制・市場状況・承認事例から今後の展望～

情報機構, 東京, pp. 3-19, pp. 44-57 (2010)

バイオ後続品の各国での規制状況や同等性評価の要件について概説するとともに, 今後の課題について紹介した。

○ 川崎ナナ

日本薬局方 技術情報2010 第十五改正第一追補／第二追補対応

じほう, 東京, pp. 131-135 (2010)

医薬品各条に関する技術情報の章において, ヘパリンカルシウム及びヘパリンナトリウムの純度試験に関する技術情報について著述した。

○ Itoh, S., Takakura, D., Kawasaki, N., Yamaguchi, T.

The Protein Protocols Handbook, 3rd(ed)

Springer, New York, pp. 1419-1430 (2009)

153章 Glycopeptide analysis using LC/MS and LC/MSⁿの章において、LC/MS及びLC/MSⁿを用いた糖ペプチドの解析方法を解説した。

(遺伝子細胞医薬部)

○ 内田恵理子

日本薬局方技術情報2010 第十五改正第一追補/第二追補対応

じほう, 東京, pp85-91 (2010)

参考情報に関する技術情報” 20. バイオテクノロジー応用医薬品/生物起源由来医薬品の製造に用いる細胞基材に対するマイコプラズマ否定試験”を担当し、第15改正第二追補での改正点を中心に本書の一部を著述した。

(食品添加物部)

○ 河村 葉子

食品安全ハンドブック

丸善株式会社, 東京, pp. 380-397 (2010)

第16章 食品用器具・容器包装及び第17章 食品用洗浄剤で、それぞれの種類や含有される化学物質、安全性確保のための注意点などを記述した。

○ 河村 葉子

衛生試験法・注解 2010

金原出版株式会社, 東京, pp. 664-671 (2010)

3.1.6 玩具の項目において、玩具に関わる各種衛生試験の試験法とその注解を記述した。

○ 佐藤 恭子

食品安全ハンドブック

丸善株式会社, 東京, pp. 335-338, 344-346, 362-363 (2010)

第15章食品添加物の成分規格、添加物の摂取の実態、食品添加物に関わる検査及び食品添加物各論の香料について記述した。

○ 佐藤 恭子

衛生試験法・注解 2010

金原出版株式会社, 東京, pp. 350-370 (2010)

2.3.8 食品添加物試験法 甘味料 (アスパルテーム, グリチルリチン酸, サッカリン及びサッカリンナトリウム, 糖アルコール) の試験法とその注解を記述した。

○ 山崎 壮

食品安全ハンドブック

丸善株式会社, 東京, pp. 335-338 (2010)

第15章 15.5成分規格において、食品添加物の公定書規格と業界自主規格について記述した。

○ 六鹿 元雄

衛生試験法・注解 2010

金原出版株式会社, 東京, pp. 603-605, 626-627, 632-633, 640, 655-658 (2010)

3.1.1 プラスチック製品, 3.1.3 金属製品 および 3.1.4 ゴム製品の項目において、各種衛生試験の試験法とその注解を記述した。

5. 学会・講演等

(生物薬品部)

○ 山口照英

遺伝子医薬品についての各国の規制当局の現状

第8回 遺伝子治療シンポジウム (2010.2) (大阪)

(療品部)

- 迫田秀行, 石川 格, 松岡厚子, 西井 孝*, 菅野伸彦*

*大阪大学運動器医工学治療学

破損したバイポーラ型人工骨頭の不具合要因分析

第40回 日本人工関節学会 (2010.2) (宜野湾)

(環境衛生化学部)

- 神野透人

身近な家庭用品と健康

シンポジウム「化学物質と環境・健康」

平成21年度厚生労働科学研究 (化学物質リスク研究推進事業)

(2010.2) (仙台)

(食品衛生化学部)

- 五十君静信

カンピロバクターによる食中毒について

食品の安全・安心に関するリスクコミュニケーション

(2010.1) (千葉)

(衛生微生物部)

- 鎌田洋一

毒素による食中毒

平成21年度 厚生労働科学研究(食品の安心・安全確保推研究) シンポジウムー安全な食品で健やかな暮らし

(2010.2) (東京)

- 鎌田洋一

生食魚介類を共通食とする原因不明食中毒における病因物質特定の試み

第22回地研全国協議会関東甲信静支部細菌研究部会総会・研究会

(2010.2) (前橋)

(代謝生化学部)

- 安達玲子

アレルギー物質を含む食品の表示と検査方法

国立保健医療科学院平成21年度短期研修食品衛生管理研修

(2010,2) (和光市)

- 穂山 浩

The development of GMO detection method in NIHS Japan (国立医薬品食品衛生研究所におけるGMO検知技術開発)

The 2nd plenary meeting of ISOTC34/SC16 Horizontal methods for molecular biomarkers analysis (ポストワークショップ「GMO検知技術の国際動向」)

(2010.2) (東京)

国立医薬品食品衛生研究所で行っている未承認遺伝子組換え食品の検知法と安全性承認済み遺伝子組換えトウモロコシの検知法の開発に関する研究の講演を行った。

- 穂山 浩

遺伝子組換え食品の種類と検知法について

(独) 国際協力機構 食品保健行政研修講演

(2010.2) (東京)

遺伝子組換え食品の種類と未承認遺伝子組換え食品の検知法の開発に関する研究の講演を行った。

- 手島玲子
遺伝子組換え食品の安全性評価について
 (独) 国際協力機構 食品保健行政研修講演
 (2010.2) (東京)
 遺伝子組み換え食品の安全性評価について講演を行った。
- 手島玲子
遺伝子組換え食品と安全性について
 千里ライフサイエンス市民公開講座 第56回 「食の安全」
 (2010.2) (豊中市)
 千里ライフサイエンス市民講座「食の安全」を考えるシンポジウムにおいて遺
 伝子組換え食品の概要と安全性について講演を行った。

(薬理部)

- 諫田泰成
Role of Nox4 in adipocyte differentiation from mesenchymal stem cells
(間葉系幹細胞の脂肪分化におけるNox4の役割)
 Keystone Symposium (B4: Stem Cell Differentiation and
 Dedifferentiation), February 17th, 2010, Keystone
 キーストンシンポジウム (B4: 幹細胞の分化と脱分化), (2010.2) (キースト
 ン)

(病理部)

- 坂本洋平, 吉田 緑, 井上 薫, 高橋美和, 小澤正吾^{*1}, 根岸正彦^{*2}, 西川秋佳
^{*1}岩手医科大学 薬学部 薬物代謝動態学, ^{*2}NIHES/NIH
CAR遺伝子欠損マウスを用いた化学物質による肝肥大メカニズム解析
 第26回日本毒性病理学会(2010.2)(金沢)
- 梅村隆志
レポーター遺伝子導入動物を用いた発がん研究
 第26回日本毒性病理学会(2010.2)(金沢)
- 吉田 緑, 武田賢和, 島田義也^{*1}, 井上 薫, 森川朋美, 高橋美和, 坂本洋
 平, 渡辺 元^{*2}, 田谷一善^{*2}, 西川秋佳
^{*1}放射線医学総合研究所, ^{*2}東京農工大学
未成熟期の放射線照射による小卵胞障害の経時的変化
 第26回日本毒性病理学会(2010.2)(金沢)
- 石井雄二, 鈴木裕太, 日比大介, 金 美蘭, 児玉幸夫, 梅村隆志, 能美健彦,
 西川秋佳
**ルシジン配糖体の *gpt delta* マウス腎臓における突然変異誘発性と遺伝子傷害
 性におよぼすスルフォトランスフェラーゼ阻害剤併用投与の影響**
 第26回日本毒性病理学会(2010.2)(金沢)
- 井上 薫, 吉田 緑, 入江かをる, 高橋美和, 坂本洋平, 武田賢和, 西川秋佳
**アドリアマイシン投与による幼若遺伝性ネフローゼマウスの糸球体病変への影
 響**
 第26回日本毒性病理学会(2010.2)(金沢)
- 入江かをる, 吉田 緑, 井上 薫, 高橋美和, 梅村隆志, 西川秋佳
アクリルアミドの精巣毒性の機序: 核タンパク質プロタミンとの関係
 第26回日本毒性病理学会(2010.2)(金沢)
- 曹 永晩, 今井俊夫^{*1}, 高見成昭, 小川久美子, 西川秋佳
^{*1}国立がんセンター研究所 実験動物管理室

F344ラットにおけるセイヨウワサビの膀胱発がん促進作用

第26回日本毒性病理学会(2010.2)(金沢)

- 高見成昭, 曹 永暁, 小川久美子, 西川秋佳

F344ラットにおける塩化マグネシウムの慢性毒性・発がん性の検討

第26回日本毒性病理学会(2010.2)(金沢)

- 日比大介, 木島綾希, 鈴木裕太, 金 美蘭, 石井雄二, 増井則夫^{*1}, 能美健彦, 梅村隆志, 西川秋佳

^{*1} (株) 日本エスエルシー

***gpt delta* ラットを用いた新しい短期包括試験法によるフランの毒性評価**

第26回日本毒性病理学会(2010.2)(金沢)

- 鈴木裕太, 木島綾希, 日比大介, 金 美蘭, 石井雄二, 梅村隆志, 西川秋佳

Estragoleのラットにおける肝発がん性および特異的付加体形成の検討

第26回日本毒性病理学会(2010.2)(金沢)

- 岡村俊也, 石井雄二, 井上知紀, 田崎雅子, 鈴木裕太, 児玉幸夫, 能美健彦, 梅村隆志, 西川秋佳

***p 53*ノックアウト *gpt delta*マウス肝におけるMeIQxの変異原性に対するCCl₄誘発肝障害の修飾効果**

第26回日本毒性病理学会(2010.2)(金沢)

- 田崎雅子, 井上知紀, 岡村俊也, 石井雄二, 増井則夫^{*1}, 能美健彦, 梅村隆志, 西川秋佳

^{*1} (株) 日本エスエルシー

CYP誘導能を有する非遺伝毒性ラット肝発がん物質による酸化的DNA損傷ならびに *in vivo* 変異原性

第26回日本毒性病理学会(2010.2)(金沢)

- 井上知紀, 日比大介, 豊田尚美, 田崎雅子, 岡村俊也, 金 美蘭, 鈴木裕太, 石井雄二, 能美健彦, 梅村隆志, 西川秋佳

F344系 *gpt delta* ラットを用いたDEN誘発肝の *in vivo* 変異原性ならびに前がん病変に対するトコトリエノールの修飾効果

第26回日本毒性病理学会(2010.2)(金沢)

- 武田賢和, 吉田 緑, 井上 薫, 高橋美和, 坂本洋平, 渡辺 元^{*1}, 田谷一善^{*1}, 山手丈至^{*2}, 西川秋佳

^{*1}東京農工大学大学院 共生科学技術研究院 獣医生理学教室, ^{*2}大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 獣医病理学教室

SDラットでの各性周期における新旧黄体の機能解析

第26回日本毒性病理学会(2010.2)(金沢)

- 渋谷 淳^{*1,2}, 市村亮平^{*1}, 谷合枝里子^{*1}, 高橋美和, 剣持 明^{*1,2}, 嶋本敬介^{*1,2}, 三森国敏^{*1}

^{*1}東京農工大学農学部獣医学科獣医病理学教室, ^{*2}岐阜大学大学院連合獣医

ラット肝発がん促進過程早期からのTGFβシグナリングの破綻

第26回日本毒性病理学会(2010.2)(金沢)

- 三枝由紀恵^{*1,2}, 禹 桂炯, 富士本 仁, 剣持 明^{*1,2}, 嶋本敬介^{*1,2}, 広瀬雅雄^{*3}, 三森国敏^{*1}, 西川秋佳, 渋谷 淳^{*1}

^{*1}東京農工大学獣医病理学研究室, ^{*2}岐阜大学院連合獣医, ^{*3}内閣府食品安全委員会

ラットの発達期甲状腺機能低下に起因して海馬歯状回に増加するReelin陽性細胞の特性

第26回日本毒性病理学会(2010.2)(金沢)

- 藤本成明^{*1}, 吉田 緑, 西川秋佳, 小澤正吾^{*2}, 蒲生俊恵^{*2}, 根本清光^{*3}, 出川雅邦^{*3}

^{*1}広島大原医研組織再生内分泌, ^{*2}岩手医科大薬学, ^{*3}静岡県立大薬学

化学物質による肝肥大の毒性指標としての性ホルモン受容体および応答性遺伝子発現の検討

第26回日本毒性病理学会(2010.2)(金沢)

- 井上 薫, 吉田 緑, 小西良子, 西川秋佳

幼若ICGNマウスの腎病変に対するニバレノールおよびアドリアマイシンの影響について

第3回ICGNマウス研究会(2010.2)(大阪)

(変異遺伝部)

- 能美健彦

遺伝子改変動物を用いる遺伝毒性試験の開発と評価

第26回日本毒性病理学会(2010.2)(金沢)

- 豊田尚美, 安井由美子^{*}, 村松美那, 増村健一, 田中卓二^{*}, 能美健彦

^{*}金沢医大・腫瘍病理

*gpt delta transgenic rat*におけるカプサイシンとシリマリンの化学予防効果

第26回日本毒性病理学会(2010.2)(金沢)

- 堀端克良

Implication for Cockayne syndrome and truncated CSB protein (コケイン症候群の発症と変異型CSBタンパク質)

International Conference on Radiation and Cancer Biology at Nagasaki 2010

長崎大学医学部良順ホール(2010.2)

(総合評価研究室)

- 広瀬明彦

ナノ物質の生体への影響

第2回化学物質リスクマネジメント講座—ナノテク物質の安全性と化学物質管理のマネジメント—

化学会館会議室(2010.2)

6. レギュラトリーサイエンス関連国際会議報告

(衛生微生物部)

- 小西良子

第72回 FAO/WHO JECFA meeting (FAO/WHO 食品添加物合同専門家会議)

ローマ, 2010年2月

アクリルアミド, ヒソ, 総水銀, フラン, デオキシニバレノールのリスク評価を行った. デオキシニバレノールに関しては, 従来の単独物質でのリスク評価から, その代謝物を含めるグループ評価となった.

(総合評価研究室)

- 広瀬 明彦

72nd Joint FAO/WHO Expert Committee on Food Additives (第72回FAO/WHO合同食品添加物専門家会合 (JECFA) (汚染物質))

ローマ，2010年2月

食品汚染物質として，アクリルアミド，ヒ素，デオキシニバレノール(DON)，過塩素酸，フラン，水銀に係るリスク評価を行った。